

路上の身体・ネットの情動

3.11後の新しい社会運動：反原発、反差別、そしてSEALDs

田村貴紀・田村大有 著

定価 1800円＋税 上製四六判 265ページ ISBN978-4-86228-089-3 C0036

体験と対話からたどる「傷をめぐる人々の物語」としての社会運動

気鋭の社会情報学者が自ら参加し、さらに参加者へのインタビューで追う、新しい社会運動のかたち。

「知的に上昇する知」から、「地べたの思想戦を戦う知」へ！

★原発、マイノリティ、そしてSEALDs。現代の社会運動のあり方とは

☆個人の物語から、政治と社会を語る動機に迫る

★推薦「必読の記録」 奥田愛基(SEALDs)

《目次》

序 傷をめぐる人々の物語

第1章 反原発運動

原発事故と抗議行動／TwitNoNukes—雲のように集まり、雲のように消える
官邸前抗議—開放された車道／黙々と止める人々

第2章 反差別運動

差別を許さない／はじまりのKポペン／レイシストをしばき隊

第3章 そしてSEALDs

海底／一五年安保とSEALDs／もう一つの源流—U-20デモ実行委員会
SEALDs、それぞれの来歴／SEALDsをめぐる賞賛と批判—ツイッターテキスト分析
六頭の龍の背に乗って

田村 貴紀(たむら・たかのり)

国際基督教大学卒業、筑波大学大学院博士課程人文社会科学研究科修了、博士(文学)。現在、法政大学非常勤講師。

主な著書：竹之内禎・河島茂生『情報倫理の挑戦：「生きる意味」へのアプローチ』(分担執筆)(学文社)、
The Internet and Personal Narratives in the Post-Disaster Anti-Nuclear Movement. The Asia-Pacific Journal, 13(6-4). 1.

田村 大有(たむら・だいゆう)

大正大学人間学部卒業、立教大学社会学研究科博士課程前期課程。

主な著書：竹之内禎・河島茂生『情報倫理の挑戦：「生きる意味」へのアプローチ』(分担執筆)(学文社)、Erica Baffelli
et. al. (eds), Japanese Religions on the Internet: Innovation, Representation, and Authority (pp. 173-195). Routledge. (分担執筆)ほか

青灯社

営業(担当・社)

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-13

URL <http://www.seitosh-p.co.jp>

TEL 03-5368-6550

FAX: 03-5368-6943

eメール sales@seitosh-p.co.jp

路上の身体・ ネットの情動

3.11後の新しい社会運動： 反原発、反差別、そしてSEALDs

田村貴紀・田村大有



「人々は何を思い、何に参加し、何を訴えたのか。3.11からの時代の傷をめぐる、人々の物語。震災後の社会を見つめた、社会情報学者による必読の記録。」
奥田愛基
(SEALDs・ReDEMOS 代表理事・市民運動家)

ハイカルチャーの知ではなく地べたの思想戦を闘う知へ

(書店印)
ジャンル/社会・政治

冊

路上の身体・ネットの情動

—3.11後の新しい社会運動：反原発、反差別、そしてSEALDs

ISBN 978-4-86228-089-3 C0036

定価 1800円＋税